

りゅうPON!

初めてがいっぱい

離島生活体験したよ

那覇市立城東小学校5年2組(担任・玉里恵理菜先生)の児童28人は2010年12月26日から28日まで伊江島を訪ね、離島の暮らしを体験しました。



地元の漁師の指導で魚をさばく児童。初めての事も頑張りました。112010年12月27日、伊江村青少年旅行村(又吉康秀撮影)



伊江島の自然も満喫しました。ビーチで遊ぶ児童。12月27日、伊江村青少年旅行村

城東小28人 伊江島へ

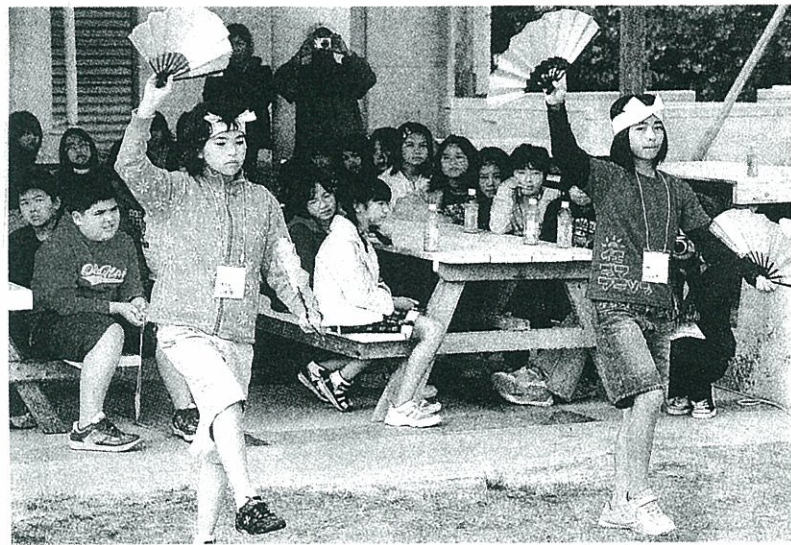
県が進めるイベントの一つで、沖縄本島の小学生が離島の子どもとの交流を通して離島の魅力を知ると同時に、悔みにも目を向け、一緒に考えるきっかけにすることが目的です。城東小の子どもたちは、民泊など体験を楽しむだけではなく、中学を卒業すると島を出て一人で暮らす、離島の子ども大変さも知りました。

魚をさばく

伊江島は修学旅行生らを普通の家に泊めて交流する民泊が盛んです。城東小の児童も民泊を体験し、伊江島のお父さんやお母さんと触れ合いました。

島の漁師からは魚のさばき方を習い、海人カレーを作りました。初挑戦の内藤壮太君(11)は「内臓がグロテスクでびっくりしたけどおいしい」と笑顔で語りました。

地元の子どもたちとの交流会では、ゲームや工作をするうちにすっかり仲良しに。民泊先



得意な舞踊などを披露し、すっかり打ち解けた交流会。12月27日、伊江村青少年旅行村



民泊先のお父さん、玉城長良さん(右)からアダンの葉の風車作りを習う児童。12月28日、城山展望台

島を出る日?

島の人たちは離島の大変さについても話してくれました。島

またんいめんしより

明日帰るといふ日、児童たちは島のお父さん、お母さんにお礼の手紙を書くことと決めました。玉里先生は「こんな声が上がるといい」と目を細めました。

最終日、島のお父さんたちは「またんいめんしより(伊江島の方言で『またいらっしやい』)城東っ子」と書いた横断幕を掲げ、見送ってくれました。「島の人たちは優しく温かい。また来たい」と志堅原佑太君(10)、3日間の経験で、みんなが伊江島を大好きになり、大きく成長しました。(与那覇裕子)

には、中学校までしかないため、卒業すると島を出て自分で生活しなければなりません。島の子は幼い時から親に、料理や洗濯など身の回りのことを自分でできるよう教えられます。城東小の児童は、これ聞いてびっくり。伊江島出身の玉里先生(31)に「先生もそうだったの?」と聞いていました。島のお父さんの一人、玉城長良さん(51)は「那覇の子たちは自分の家から高校にも通える。普段からお父さん、お母さんに感謝してほしいな」と語りました。